

2月議会が開会、一般質問の登壇は3月3日午後4時頃に

2月20日袋井市社会福祉大会

町永俊雄氏（NHK エグゼクティブ・アナウンサー）の講演を聞きました。

「これまで福祉といえば、貧しい人を救うことだったが、少子高齢化が急激に進むなかで、財源も制度も追いつかない。これからの福祉は『共に支ええあう』共生社会に変わらざるをえない。かつての江戸は世界で屈指の100万都市だったが、きれいで整然とした都市だった。それは落語の長屋社会に見られる誰もが認め合い支えあっている社会だった。人のために尽くすことが自分に還ってくる『ご恩送り』が当たり前に行われていて人と人がつながっている社会だった。これから目指す未来とはこうした『懐かしい社会』をつくらなくてはいけない。『子育てうつ』も『自殺』も孤立、人とつながらない社会が要因だ。知識があっても知恵が足りない。孤立・無関心を変えるのは年寄り・女性。知恵は年寄りが持っている、地域社会は女性の子育て経験（関心・想像力・共感）が役に立つ。」—こんなお話だったかと。子育ても福祉も社会全体で取り組むべきで「誰でもみんなが認め合うやさしい社会づくり」が求められているということを再認識させていただきました。

2月19日農業委員会

人口10万以上の都市に準じ、袋井市にも2ha以下の農地転用の許可権限が

「静岡県権限委譲推進計画」に基づき、これまでに県内の人口10万人以上の11市に2ha以下の農地転用許可権限が委譲されておりました。今年4月より新たに袋井市、牧之原市にも同様の権限委譲がされます。

これにより、市農業委員会で審査し、その後

に県農業会議に諮問していたその期間が短縮されます。しかしその分市農業委員会の決定には責任が重くなります。そのため袋井市農業委員会ではそれまで地元農業委員、事務局の判断で受付、審査していたものを、3月からは北部、南部と分けて当番制で集団での現地調査・事前審査会を実施し、その後の全体の会議で審査し、許可を決定することとなりました。農業委員には出役が増え、その分負担が増すこととなります。今、農業委員会には荒廃農地解消や農業振興の取組みなど大変重要な役割と期待を担っており大変です。

2月23日市議会2月定例会開会

開会冒頭に、原田市長から平成22年度施政方針が示されました。多く語られたキーワードは「自治体経営」「地域主権」「パートナーシップ」「協働」です。要はきびしい財政状況のなか、事業の集中・重点化、市民の協力で乗り切ろうということか。今年の重点は「保健」「医療」「福祉」「子育て・教育」そして「農を活かしたまちづくり」の5つです。その後上程議案の説明が行われました。

今回は15人が一般質問

今回はくじ運が悪く12番目となってしまいました。今回私は、「核兵器廃絶宣言の具現化の取組み、税外負担の解消、生物多様性の取組み」を取り上げ、市の姿勢を質します。気軽に傍聴にお越しください。

高橋よしひろの議会活動通信

2010年2月25日号

袋井市大谷245 TEL・FAX (48) 6100

E-mail: wbs35910@mail.wbs.ne.jp

http://www.yoshihiro-takahashi.net

ブログ「美博の東奔西走」更新中！